

平成17年度調査・研究事業

秋田市観光振興計画策定調査〈秋田県〉

【概要】

秋田市においては、秋田新幹線開通、秋田自動車道全線開通など高速交通網の整備にあわせ、平成9年に観光振興基本計画を策定し、観光振興施策を展開してきたところであるが、同市の観光は、竿燈祭りに特化しており、観光に対する価値観の多様化によりその需要は伸び悩んでいる。

こうした状況下、平成17年1月の河辺町、雄和町との合併を契機に、新秋田市の観光資源の魅力向上策を検討し、体験型、通年滞在型の観光振興を図るための新しい観光振興計画を策定することを目的として調査を行った。

【対象市町村、モデル地域等】

秋田県秋田市

【調査年度】

平成17年度

【提案・要請者】

秋田県秋田市

【提言内容・その後の活動等】

秋田市の観光振興の8つの課題（地域魅力、広域魅力、宣伝・誘客、情報、交通、宿・食、組織・体制、交流）を整理し、今後の基本理念として「都市と自然の融合」「文化と歴史の再興」「美と伝統の継承」の3つを掲げ、「雄物川の流るるに街、里山の魅力を彩る～自然体感都市・秋田」をテーマに今後10年間の観光振興を推進することとした。

さらに、上記テーマを具現化するため、5つの基本方針の下、各種施策を体系化すると共に、街・川・里山の3つのリーディングプロジェクトを設定し、達成のための具体的な行動計画を取り纏め提言した。

基本方針は、上記テーマに秋田市の観光の新たな流れを生み出し、広げ、つなげていくことを視点として、以下の5つを設定した。

- ①「四季の魅力により滞在を楽しめる観光都市づくり」
- ②「地域連携により幅広く楽しめる観光都市づくり」
- ③「いつでも、どこでも賑わう観光都市づくり」
- ④「魅力的な情報を絶えまなく発信する観光都市づくり」
- ⑤「魅力を持続的に継承する観光都市づくり」

秋田市では、この調査報告書内容をオーソライズのうえ、正式な観光振興計画として位置づけることとしている。

【成果品】

報告書

【調査体制】

委員会

【委員長・座長】

井上 博文 東洋大学国際地域学部国際観光学科教授

【事務局】(IMCTは除く)

山本 誠悦 秋田市商工部商業観光課観光政策担当主査

小林 真 秋田市商工部商業観光課観光政策担当主事

【調査協力機関】

社団法人日本観光協会

【視察先・ヒアリング先など】

島根県松江市

【委員等】(分科会等は除く)

小国 輝也 旅館榮太楼代表取締役社長

仁部 正志 秋田魁新報社事業局長

前田 健二 JTB東北秋田支店長

佐藤 一雄 東日本旅客鉄道秋田支社旅行業担当課長

伊藤 満 農事組合法人種沢ファーム代表理事

藤原 優太郎 あきた山の学校代表

田中 昌子 秋田県産業労働部観光課長

加藤 隆悦 市民公募委員

佐良 土佳子 市民公募委員

鈴木 雅子 市民公募委員

黒丸 惟之 秋田市商工部次長

【区分】

電源地域振興指導事業